

院内感染 対策だより

第9号

平成16年1月

- ・院内感染対策講習会報告
- ・スタッフのインフルエンザ ワクチンの接種状況
- ・院内の消毒剤が少しずつ変更になっています！
- ・感染何でも Q&A・BOX

院内感染対策チーム（ICT）発行

院内感染対策講習会報告

9月19日に行われた本年度第2回目となる院内感染対策講習会の一部を簡単にご紹介します。今回は、安岡助教授に、院内感染の基本についてお話いただきました。

「感染予防の基礎の基礎」

富山医科薬科大学 感染予防医学／感染症治療部 助教授 安岡 彰氏

◎望ましい感染対策は

感染対策チームは感染症の発生動向、現状の問題点、推奨される感染対策などを整理し、また、診療スタッフは医療提供上の必要性和マンパワーや設備上の限界などを整理します。これらを取りあわせしながら、現実的で望ましい感染対策を行ってください。このことは、医療の質の向上にもつながります。

◎院内感染対策のアプローチ

まずは、できることから取りかかることが大切です。なかでも手洗いは基本であり、かつ、重要です。清潔操作や清掃、消毒もその一つです。

また、常に見えない病原体を意識し、手洗い、手袋の着用、正しい処置・消毒方法を実践してください。しかし、これからはコストエフェクティブな感染対策が求められており、適切なコスト計算をし、不要な対策はせず、必要なものは取り入れるようにしてください。更には、刻々と変化するエビデンスに基いた対策をとるため最新の情報を入手すること、病院経営の一部として経費や設備の支援をすることなど、多方面から感染対策を推進していくことが大切です。

◎手・手洗いの重要性

医療行為において、手はかかすことのできない重要なものです。手（健常な皮膚）は、強固なバリアを有するため、医療従事者が手を介して感染を受けることはまれです。しかし、患者様や病巣に触れるたびに手に病原体を付着させています。そのため、一つの医療行為から次の医療行為に移るたびに手を介して病原体が伝播されます。

何かに触れたら手は汚染されています。特に清潔でない部位の処置を行えば手は汚染されます。創部や患者周囲に触れることにより容易に菌が付着すると考え、医療行為にあたってください。手袋を脱いだ後の手も、汗による常在菌などの繁殖があるため、手洗いを行ってください。

これらを踏まえ、消毒石鹸と流水、または、アルコール含有の手指消毒剤による手洗いを適正に行い、感染予防に努めてください。

簡単にできそうでできないのが手洗いだと思います。手洗いの必要性、重要性の意識を常にもち、実践されるようお願いいたします。

スタッフへのインフルエンザワクチンの接種状況

この冬は、SARS（重症呼吸器症候群）再流行も懸念されております。SARSは、発熱などの初期症状がインフルエンザとよく似ており、SARSの発症と区別するためにも当院スタッフの方々にインフルエンザワクチンの接種をお願いしました。その接種率は、次のとおりでした。ご協力ありがとうございました。

対象者	接種者	接種率
460人	426人	93%

院内の消毒剤が少しずつ変更になっています！

院内のあらゆる部署で、色々な消毒剤が使われてきました。入手経路も薬剤科であったり用度であったりと混乱を招くことがありました。今回、院内感染対策委員会では、使用方法が安全かつ簡便、またコストも安価なものに見直しました。院内の医療器具等は、統一した消毒剤を使用するようご協力ください。

旧商品	変更商品	薬剤名	使用する物	入手先
ベクロジドVエタノールを含む スワビングティッシュ	アルウエティ	エタノール 80% 含浸	環境・機器の除菌 清拭	用度
ホエスミンラビング	花王ハンドクリーン	塩化ベンザルコ ニウム・エタノ ール	手	用度
ミルクポン	花王病院用ハイター (一部ミルクポンの使 用継続する部署あり)	次亜塩素酸ナト リウム	吸引ビン 尿器 ガーグルベース 酸素マスク 薬杯・蛇管 カニューラ 採血ホルダー 陰洗ボトル 膿盆など	用度
アセサイド	ディスオーバー (高水準消毒)	フタラール製剤	耳鼻科領域 泌尿器科領域 手術室	薬局

感染何でも Q&A・BOX

Q:先日NHKのニュース10で報道された「真空採血管細菌感染注意」に関する報道や厚生労働省からの通達で、今後採血方法をどう対応すればよいのでしょうか？

A:報道でもあったように、日本では真空採血管の滅菌消毒は義務づけられておらず、細菌培養検査からセラチア菌やセレウス菌など日和見感染の起炎菌が発見されたそうです。真空採血管を使用して採血した場合、採血管内のこの内容物等が逆流し、患者の体内に入る可能性があります。逆流を発生させるおそれのあるリスクについて再認識して適切な採血方法を身につけてください。その項目の詳細は、各病棟に配布してあります資料をご参照してください。現場では実行しにくい項目もありますが、その際は翼状針と注射器での採血ではどうでしょうか？厚生労働省からの通達でわかりにくい点がありましたら、どんどん院内感染対策委員（ICT）に聞いてください。

編 集 後 記

4月から院内感染対策委員となり、わからないことばかりで戸惑いながら、委員の方々や多くの方々にお教えいただき、そして助けていただきながら何とかここまで来ました。

先日、ある院内感染に関する講演会に行く機会がありました。そこでのお話の中に、欧米では患者様の目の前で、新しい手袋を箱から出し、またカテーテルなども袋から出すとありました。これは、患者様が自分に清潔なもので医療行為をしているのだと目で確認し、安心していただくためであり、また、院内感染に対する訴訟対策のために行っているとのことでした。

手袋などは、医療従事者を感染から守るだけでなく、患者様を守ることでもあることを知り、考えを新たにしました。

編 集 委 員

委員長	清水 哲朗 (外科)	委員	長 堀 毅 (脳神経外科)
委員	川 崎 聡 (内科)	委員	國 谷 等 (内科)
委員	矢 地 弘子 (看護科)	委員	関 千鶴子 (看護科)
委員	村 田 美代子 (看護科)	委員	谷 畑 祐子 (看護科)
委員	小 路 聡美 (検査科)	委員	山 田 悦子 (リハビリ)
委員	加 藤 貴子 (薬剤科)	委員	高 野 弘文 (事務局)

院内感染対策だより 第9号

発行責任者 清水哲朗 (ICT委員長・外科部長)
発行日 平成16年1月1日
発行所 氷見市民病院
院内感染対策チーム (ICT)